

— 千葉工業大学 —

1月31日 A日程 英語

解答・解説

1.

(1) イ (2) ウ (3) ア (4) ア (5) エ (6) ア (7) イ (8) ① イ ② ウ ③ エ

- (1) **brisk** は「(動きが)活発な」という意味。空所(1)に **a brisk walking** は、単に歩くというよりいわゆる「ウォーキング」を意味している。
- (2) **pick up** で「〈健康・元気〉を回復する、〈人〉を元気にする」それを知らなくても文脈から判断可能。
- (3) 等位接続詞 **but** で並列された前の文の主語・**these changes** が **but** の後の文でも同様に主語に。**these changes** は、前文の主語 **they** を指し、**they** はさらに前の文の **the mood changes** を受けている。
- (4) **in shape** で「体調が良くて」。
- (5) エは「元気な気分がどれだけ続くか」の意。空所(5)の段落と次の段落の内容から考える。
- (6) 文頭 **the people** が文全体の主語。次の **who** が **boost** まで関係代名詞節。続く **avoided** と **didn't experience** が **and** で並列されている。これらが **the people** に対する述語動詞にあたる。
- (7) 下線部(7)の意味は「続いている個人の問題の深刻さを判断する」イは **judged** の目的語が、間接疑問文になっている。「彼らの継続する個人の問題が、いかに大変かを判断する」
- (8) ① イ「筆者の(受け持つ)学生の一人は、大きな試験で失敗することを強く恐れていて、どうすればその恐れを和らげられるかを知りたかった」→第2段落の内容から判断する。
② ウ「短いウォーキングがもたらす有益な効果は、歩く周囲の状況には影響を受けなかった」→第5段落の内容から判断する。
③ エ「砂糖類のお菓子には短いウォーキングと同様、人を活気づける効果があるが、良くない効果ももたらした」→第8段落の内容から判断する。

2.

① ウ ② カ ③ ア ④ イ ⑤ オ ⑥ キ ⑦ エ

- ① ①に続く **this kind of loneliness** が、どういった類の **loneliness** なのかを考える。ウは「ほとんど人たちは時に孤独だと感じるが、その気持ちは、たいてい数分から数時間しか続かない」という意味。
- ② ②に続く **it** が何を指しているか考える。カは「それ(=その気持ち)は、たいていすぐに消え、特別な注意を必要とはしない」という意味。
- ③ 前の段落で **the first kind of loneliness** と **the second kind** について述べられている。③でそれに続く **the third kind** についての言及が始まる。
- ④ 直後に④の具体例として、まわりの人たちが与える様々な影響についての言及がある。
- ⑤ 直後の **in other words** 「言い換えれば」の後の内容から考える。
- ⑥ 直後の **they** が何を指すかを考える。**they** は選択肢キの文の、“**thirteen percent**” のこと。
- ⑦ 正解のエは長い文だが、正確に構文を把握する。主節は **chronic loneliness** 以降で「慢性の孤独はとも悲しく、時に危険な状態になりうる」空欄⑦の直前の文と同様の内容。

3.

- (1) ア (2) ウ (3) ア (4) エ (5) エ

- (1) 過去の事実と反する仮定法過去完了の文。if の省略によって倒置が起きている。
- (2) 「言い訳のしようもない」は「言い訳は存在しない」→**There is no excuse...for** 以下は動名詞句。me は動名詞の意味上の主語。
- (3) **find** の第 5 文型「O が C だとわかる」本問の文は it が形式目的語で、真の目的語は不定詞句 **to walk** 以下。
- (4) **such** は「そのような」という意味の形容詞。通例 **the** と共には用いない。a[an]は **such** の後に置く。
- (5) **should+have+過去分詞**で「～すべであったのに(しなかった)」という意味。実際にはしなかったことを含意。

4.

- (1) ウ (2) エ (3) ア (4) イ (5) エ (6) イ

- (1) **however** 「しかしながら」という意味の副詞。訳す時は **I had** の前に出す。「しかしながら、私はそうしなければならなかった」
- (2) **tell** 「区別する」という意味。
- (3) **come to+動詞の原形**で「～するようになる」という意味。**become** は不定詞を補語にとらない。
- (4) **be superior to**で「～よりすぐれている」
- (5) **in time**で「間に合うように、遅れずに」
- (6) **remember** は動名詞を目的語にとって「～したことを覚えている」**remember** は不定詞も目的語にとるが、その場合「(これから)～することを覚えている、忘れずに～する」という意味に。

5.

- (1) ア (2) エ (3) ア (4) ア (5) イ (6) ア

- (1) **account for**～ 「〈物・事が〉〈出来事・現象など〉の原因となる、〈事実など〉(の理由)を説明する」
- (2) **in advance** 「前もって、あらかじめ」
- (3) **ring** は「～に電話をかける」**call on[at]**～は「～を訪ねる※「人」なら **on** 「場所」なら **at**」**call off** 「～を中止する」
- (4) **go on** 「〈事が〉起こる」
- (5) **invaluable** 「計り知れない価値の、きわめて貴重な」**valueless** だと「無価値な、取るに足りない」という意味。**priceless** 「金では買えない、たいへん貴重な」
- (6) **put off** 「～を延期する」

総評

1. 長文総合問題

内容的にわかりやすい英文。ある程度の語彙力があれば、かなりスムーズに読むことができるであろう。ただ最初の問題である(1)が、空欄近くだけを読んで(見て!?)判断できないのが難点。選択肢の **brisk** の意味が分らないと、何となくウの **a running exercise** を選んでしまうケースも考えられる。(8)は選択肢の英文が長いので、本文以上に綿密に解釈し正確に文意をとらえる必要がありそう。

2. 会話文挿入問題

①②③は比較的スムーズに入りそう。④が続く **for instance** 以下の内容を踏まえ、イを入れられるかがターニングポイント。ただし悩んでこの大問に固執し、「手が動かない」という事態は避けたい。そうなるくらいなら、続く大問3～5の知識問題に時間を割き、より完璧に仕上げたい。

3. 和文英訳・選択問題

純粋な和文英訳に比べれば易しいのは間違いないが、選択肢があると迷ってしまうといった面もあるか。すべての英文に関して、明確な文法ポイントがあるわけで((1)なら仮定法過去完了の **if** 省略)、それに気づくことが肝要。

4. 短文空欄補充・選択問題

主には文法的知識を問うもの。平易なので全問正解も可能。

5. 同意語句・選択問題

単語・熟語の知識問題。「知っていれば難なくできる」「知らないとできない」…普段の「覚える」系の地道な学習成果が反映される。

～全体を通して～

比較的しっかり英語の学習に取り組んでいた受験生にとっては、平易で取り組みやすかったのではないのでしょうか。標準的な問題集[参考書]や、塾や予備校で配られるような「これだけは覚えよう」的な知識を集約したプリント類、単語帳ならまるまる全部とは言わないまでも、基本～標準レベルをしっかりやりこんで定着させていれば、さほど困ることはないでしょう。具体的には模試で偏差値 **50** を上回る成績を取れるくらいのレベルが、問題の「出来／不出来」の分かれ目になっているように思われます。